

# 富山市定例市長記者会見（令和4年8月3日）

## ■冒頭

市長

皆さんこんにちは。

お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。それでは定例記者会見を始めさせていただきます。

## ■富山きときと空港への Street Piano の設置等について

市長

昨年8月に、富山駅等のまちなかの3箇所に設置し、これまで多くの方々  
に演奏いただいているストリートピアノについて、今月11日から県やANA  
ANAグループと連携した新たなスキームにより、富山きときと空港に設置  
し、音楽文化の醸成と空港の活性化を目指すことといたしました。

今回、富山きときと空港に設置するグランドピアノは、昨年度末に閉校  
した旧八尾中学校で使用されていたものです。富山大学芸術文化学部3年  
の浦野聖菜<sup>うらのせな</sup>さんにより、「空からの富山」をテーマに、本市の空、陸、海を  
表現したペインティング装飾を施していただいております。国内外からの  
玄関口である空港において、音楽とアートの力で、おもてなしの気持ちや  
本市から旅立つ方々へのエールを送りたいと思います。

今月11日は、本市におけるストリートピアノの開設1周年の記念日でも  
ありますので、当日は記念演奏会を開催することといたしました。

富山きときと空港では11時から、富山駅では14時30分から開催する  
こととしております。桐朋学園大学院大学の瀬上純令<sup>せがみすみれ</sup>さんや市内のピアニ  
ストの方々に出演いただくとともに、富山きときと空港では、ANAグル  
ープのパイロットやキャビンアテンダントの方々に構成される「ANAチ  
ーム羽田オーケストラ」の皆さんにゲスト出演いただくことになっており  
ます。

本市では、現在整備を進める中規模ホールの開館に加え、こうしたストリートピアノ等のソフト面の重層的な取り組みを重ねていくことで、市民の皆様には、感動や潤いが溢れる都市で暮らす喜びを感じていただき、日常の暮らしの中で一人ひとりが物語の主役となり、生き活きと暮らせる未来を育んでまいりたいと考えております。

## ■富山市キャッシュレス決済ポイント還元事業について

市長

本市では、9月1日から「富山市キャッシュレス決済ポイント還元事業」を実施することといたしました。

本事業は、コロナ禍において原油価格や物価の高騰に直面する中小企業者の経営を支援するため、市内の店舗において、スマートフォンでキャッシュレス決済を行った消費者の皆さんに対し、ポイントを還元することで消費を喚起し、商業の振興や地域経済の活性化を図ることを目的としております。一昨年度及び昨年度に実施した還元事業に引き続き、今回は第3弾の実施となります。

事業の期間は、9月1日から10月31日までの2カ月間を予定しております。期間中は対象店舗において、キャッシュレス決済サービスの「au PAY」や「d払い」を利用し買い物をされる方に、決済額の20%をポイントとして還元します。また、ポイントの還元上限額は、1キャッシュレス決済サービスにつき、1回あたり1,000円相当、期間中の上限は5,000円相当としております。

さらに、より多くの店舗や消費者の方が本事業に参加していただける仕組みとして、前回までは利用できるキャッシュレス決済サービスを1種類のみとしておりましたが、今回の事業では、利用できるサービスを2種類に増やして実施することとしております。

今回の事業における還元ポイント予算の総額は5億円であります。この

金額を全額還元した場合、25億円以上の消費額が期待される、経済効果が期待されることでもありますので、市内外の多くの方々にご利用いただくことで、富山市における消費、経済活性化の一助となるものと考えております。

なお、事業期間内に還元ポイント予算の5億円を超えることが見込まれる場合は、本事業を予定より早期に終了する可能性もありますが、その際には改めて市民の皆様にご周知いたします。

本事業においては、キャッシュレス決済の利用に不慣れな方に対して、相談窓口やコールセンターを設置するとともに、市内5か所において利用方法等の説明会も開催しますので、これまでにキャッシュレス決済を利用されたことがない方もこの機会にチャレンジしていただけると幸いです。

また、キャッシュレス決済の未加盟店舗におかれましても、キャッシュレス決済の導入支援を行いたいと思います。相談窓口やコールセンターをご活用いただき、今回の還元事業にご参加いただければと考えております。

## ■ にいぜろにいい富山チンドンフェスティバル2022の開催について

市長

このたび、本市及び富山商工会議所などで組織する、全日本チンドンコンクール実行委員会は、全国からチンドンマンを招聘し、「富山チンドンフェスティバル2022」を開催することにいたしました。

コロナ禍において、コンクールが3年連続中止となっております。多くの皆さまが残念に思われ、チンドンの演技を楽しむことを心待ちにされているとともに、チンドンマンの方々においても、再び富山の人々を楽しませたいという強い思いをもっておられましたので、チンドンマンを招いて、本イベントを実施することにいたしました。

本イベントは、恒例の「富山まつり」及び10月末から11月にかけてま

ちづくり団体等が連携して開催されるイベント「まちめぐりとやま」に参加する形で行います。面白くおもしろく愉快的チンドンの芸を3年ぶりに披露することで、中心市街地の賑わい創出にもつなげたいと考えております。

イベントの内容は、各会場において、チンドン太鼓や楽器の音色とともに、チンドンマンの口上などが楽しめる特別ステージを行うほか、街なかなどを練り歩いて、パフォーマンスを披露するものなどがあります。たくさんの方の市民の皆さんに笑顔をお届けしたいと考えております。

なお、「富山まつり」での本イベントのスケジュール等につきましては、この後15時から開催される「富山まつり運営委員会」において、正式に決定されますので、決まり次第、改めてお知らせいたします。

## ■ 路面電車の通勤及び通学の利用状況について

市長

本市では、路面電車の南北接続の効果を検証するため、この度、南北接続前の令和元年度と南北接続後の令和4年度の第1四半期の路面電車における通勤及び通学の利用状況について富山地方鉄道の協力のもと、調査しました。通勤及び通学の定期券利用者において、増加の傾向がみられたことから、その増加要因についての検証を行いましたので、結果を報告いたします。

はじめに、利用者の状況につきましては、通勤定期券利用者が令和元年度より2.7%増、通学定期券利用者が4.8%増、定期券利用者全体では3.8%の増加がみられました。なお、令和元年度の利用者は富山ライトレール分も含んでおり、富山駅で路面電車を乗り継いだ場合、利用者は2回カウントされておりましたが、南北接続後は一部直通運行により、富山駅を跨ぐ移動の場合、1回カウントとなることから利用者が増加していることが伺えます。

この増加の要因は、路面電車の南北接続による効果が発揮されたものと考えられます。そして、要因の具体的な内容を検証するため、令和3年に

本市で実施した、路面電車の南北接続に関するアンケート調査等の結果をもとに、検証を行いました。

路面電車南北接続に関するアンケート調査は、令和3年10月に平日及び休日のそれぞれ1日、市内の13の停留場を対象に、乗車待ちの利用者にアンケートを配布するやり方で実施いたしました。

そのアンケート結果等をもとに、南北接続による効果として、3つの点があげられます。

まず、均一運賃の導入です。路面電車の南北接続により、富山ライトレールが富山地方鉄道に吸収合併されたことに伴い、運賃は現在の均一運賃となりました。

そこで、定期券利用者へ運賃のお得感を調査したところ、回答者の68%が大変お得になった、お得になったと「お得感」を感じていることが分かりました。中でも、南北を跨ぐ利用者に調査した結果では、回答者の84%が「お得感」を感じていることが分かりました。

また、利用者へ交通手段の転換について調査したところ、回答者の17%が「変化した」との回答結果となり、うち50%の方が自家用車利用、これは送迎も含みますが、この自家用車利用からの転換が図られたという結果となりました。

さらに、路面電車沿線の中学校6校を対象に進路選択に関する影響についてヒアリングを行ったところ、うち2校より、直通運行による進学先の検討等に影響がみられたという回答を得ました。

市といたしましては、この3つの要因が路面電車の定期券利用者の増加につながっていると推察しております。今後、富山駅前に新たな商業施設が加わったことなどにより、更なる南北接続の効果が出てくることを期待しております。

引き続き、利用者の動向を注視し、路面電車の南北接続の効果検証を進め、効果が把握できた段階で南北接続による効果を広く発信してまいりたいと考えております。

## ■ 「とほ活」アプリの賞品応募開始について

市長

本市では、「公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり」を政策の柱とし、様々な施策を展開するとともに、歩いて暮らせるまちづくりを推進しています。

市民の歩くきっかけづくりを目的にスマートフォンアプリ「とほ活」を令和元年11月から運用しており、現在、1万4千人あまりの方にご登録いただいております。このアプリを通して、市民の皆さんの中に歩くライフスタイルが徐々に浸透しつつあると感じております。

「とほ活」アプリを登録されている方々は、歩くことはもとより、公共交通の利用、イベントやコレクションラリーへの参加などによってポイントが付与され、貯まったポイントに応じて賞品抽選に応募することができます。明後日の8月5日から今年度第1回目の抽選応募の受付を開始いたします。

賞品につきましては、協力協定を締結しております企業や、「とほ活」にご賛同をいただいた企業に提供をいただいております。今回は合計137名分をご用意しましたので、多くの皆さんに、ご応募いただければと思います。

賞品の詳細については、8月5日号の富山市広報や、とほ活ホームページに情報を掲載しておりますので、ぜひご確認ください。

また、応募期間中に取得したポイントも抽選応募に使えますので、現在、実施している「まちなかベンチラリー」、「カターレ富山応援ラリー」、明後日の8月5日から開催する「マンホールラリー」、これらのコレクションラリーにも積極的にご参加いただき、ポイントを取得いただければと思います。

今後とも「とほ活」アプリを多くの方に楽しんで利用していただき、市民の歩くライフスタイルへの転換を進めながら、健康で幸せに暮らすことができる、活力あるまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

## ■水道スマートメーター検針実用試験事業について

市長

富山市では、水道スマートメーターによる自動検針の実用試験を行います。

実施期間及び地区につきましては、本年8月から来年3月までの期間で、富山市山田鎌倉地区14世帯（水栓）で行います。

実施方法については、使用水量がデジタル表示される水道メーターに専用の無線通信機器を接続した水道スマートメーターを取り付けます。

水道スマートメーターで計った使用水量を北陸電力送配電株式会社の電力スマートメーターに無線で送信し、同社の通信回線を通じて上下水道局に集約いたします。

なお、今年度においては、従来の検針員による検針も行い、集約した結果との確認を行います。

確認した結果が良好であれば、翌年度からこの14世帯については、水道スマートメーターによる検針に切り替えていきたいと考えております。

今回の実用試験を通じて、水道スマートメーターの検針が実用化されれば、検針業務の効率化が図られるとともに漏水の早期発見により使用水量の増加や断水を防止することができます。また、降雪期における検針困難地区の解消にもつながると考えております。

## ■「越中八尾おわら風の盆」マンホールカードの配布開始について

市長

富山市では、下水道のマンホールを通じて広く下水道事業への理解や関心を高めていただくことを目的に、「富山市限定ハローキティ」や「とほ活アプ

り」と連携した「マンホールラリー」を期間限定で開催するなど、本市にゆかりのあるさまざまなキャラクターや歴史、文化などをモチーフにしたデザインマンホールを製作し、企画も合わせて実施してきたところであります。

加えて、今回ご紹介するマンホールカードもこれまで計 6 種類を作成し、市内各所にて配布することで、マンホールカードをコレクションされている方やマンホールカードに興味を示していただいた方が本市を訪れていただくきっかけの創出になると考えており、本市の観光資源の一端を担っているところでもあります。

そして、この度、お手元の資料に写真を掲載しておりますように、本市の 7 種類目となる、おわら風の盆をデザインしたマンホールカードを作成し、配布することといたします。カードの配布は、8 月 6 日（土）から、八尾町上新町の越中八尾観光会館において、1 人 1 枚まで配布いたします。

改めてのご紹介になりますが、マンホールカードには、マンホールの位置情報や、マンホールのデザイン採用に至る由来などの情報が記載されております。

各配布場所の詳細につきましては、本市上下水道局のホームページ及び下水道広報プラットホームのホームページに情報を掲載しておりますのでご確認ください。

おわら風の盆は、コロナ禍の影響を受け、本年 9 月に 3 年ぶりに規模を縮小して開催されます。このマンホールカードの配布は、おわら風の盆開催期間以降も継続する予定としておりますので、八尾の情緒ある街並みを訪れていただく機会に是非収集していただければと考えております。

## ■ ポケモンのマンホール蓋『ポケふた』の寄贈と設置について

市長

この度、新たに株式会社ポケモンより、ゲーム「ポケットモンスター」シリーズに登場するキャラクターである、ポケモンが描かれたデザインマンホ



ール、通称「ポケふた」を3種類、県内で初めて、富山市が寄贈を受けることになりました。

「ポケふた」は、ポケモンがデザインされたマンホール蓋で、ポケモンたちと各地域の魅力を知っていただくことを目的に、1枚1枚オリジナルでデザインされ、それぞれが世界に1つのみ存在するマンホールとして、株式会社ポケモンが全国の自治体に向けて製造及び寄贈しているものであり、これまでに25都道府県、201市町村に270枚が設置されています。

お手元の資料に掲載しておりますように、呉羽町の舞台芸術パーク、湊入船町の富岩運河環水公園、丸の内三丁目の富山城址公園に、明日、令和4年8月4日より設置いたします。

各マンホールには、立山連峰や環水公園の天門橋、県花であるチューリップなど、それぞれのポケモンにちなんだ、市内の名所や景観がデザインされており、非常に特色のあるマンホールとなっております。

加えて、マンホールが設置される場所は、スマートフォン向け位置情報ゲーム「Pokémon GO」のポケストップにも登録されるため、見るだけでなく、ゲームでも楽しむことができるものとなっております。

詳細や留意事項につきましては、本市上下水道局のホームページでご確認ください。

「ポケふた」は、(本市の)その場所でしか見ることの出来ない唯一のものであります。これを機会に是非その場所に足を運んで、現地に設置して「ポケふた」をご覧いただければと思います。

なお、本市の下水道は昭和27年から事業に着手し、令和4年で70年の節目を迎えます。今回、2件の下水道に関する情報をお伝えさせていただきましたが、この他にも70周年を記念した特別企画として、「とほ活アプリ」と連携した「マンホールラリー」や、上下水道局庁舎で現在工事を行っている「下水熱空調設備」の親子見学会などの様々な企画を実施する予定です。

企画の告知につきましては、広報とやま及び本市上下水道局ホームページを通じて案内していく予定ですので、よろしくお願いいたします。

## ■報告事項（新型コロナウイルス感染症関係）

市長

新型コロナウイルス感染症の第7波の感染状況であります。ご承知のとおり、全国で第6波をはるかに超えるスピードで感染が拡大しており、連日20万人を超える感染者が判明しております。

富山県内においては、7月27日に過去最多を大きく更新する1,924名の陽性者が判明しており、市内の感染者数も500名を超える日が続いており、いまだ感染のピークが見通せない状況であると認識しております。

この感染拡大に伴い、富山県において7月27日に新型コロナウイルス感染拡大警報「富山アラート」が発出されました。医療・介護現場の逼迫を回避するため、また今後の行動制限を回避するため、県民の皆様には感染対策の再点検、再徹底をお願いしているところです。

市民の皆様におかれましても、重ね重ねのお願いになりますが、発熱や咳、のどの痛みなど体調に異変がある場合に外出を自粛していただくことの徹底、エアコン使用時も随時、効率的な換気をしていただくなど、基本的感染対策を徹底していただきますよう、再度お願いいたします。

また、お盆の時期になります。帰省や観光のお客様などたくさんいらっしゃいます。高齢者や基礎疾患のある方と接する機会も増えると思います。事前に健康チェックを行っていただくなど、「うつさない」、「うつらない」ための行動の徹底をお願いいたします。

次に、新型コロナウイルスワクチンの接種状況についてご報告いたします。本市における接種状況につきましては、お手元の資料のとおりですが、8月2日現在で、3回目となる追加接種を受けられた方は、272,827人、全人口に対する接種率は65.9%となっております。

また、4回目接種を受けられた方は、40,927人となっております、このうち60歳以上の方は39,484人、率にして26.9%となっております。

さて、前回の記者会見でも触れさせていただきましたが、国では7月22日から、4回目接種の対象を、医療従事者や高齢者施設等従事者に拡大されたところであります。

これを受けまして、本市では、先週、富山市医師会など医療従事者が所属する関係機関や高齢者施設、障害者施設に対し、接種対象の拡大についてご案内したところであります。

まだ感染拡大傾向が継続しておりますので、重症化リスクの高い方と接する機会が多い、医療や介護といった現場の従事者の方で、3回目接種から5カ月が経過した方は、早めに接種していただきますよう、お願いいたします。

また、国からは、4回目接種対象の拡大とあわせ、オミクロン株に対応したワクチン接種について、秋以降に実施することを想定し、準備を進めるよう通知がありました。

詳細についてはまだ情報がありませんが、本市では、オミクロン株対応ワクチンの接種が開始された折には、円滑に事業を進められるよう、県や富山市医師会など関係機関と連携しながら、しっかりと接種体制を整えてまいりたいと考えております。

---

## ■ 質疑応答

### 記者

新型コロナウイルスの感染が再拡大する中、富山市保健所の現状と体制について伺います。

第6波では、市保健所の業務が多忙を極め、感染状況の捕捉などが一時滞る事態にもなりましたが、現在の状況及び体制強化のための新たな取り組みがあればお聞かせください。

### 市長

今ほどのご心配のとおり、大変逼迫した状況になっております。富山市保健所では、市内ですべて初めて感染者が判明して以来、全ての陽性者に対し、

積極的疫学調査を実施してまいりました。内容は、濃厚接触者や感染経路に関する調査を広く、こつこつと追いかけていくという調査を地道にやっております。同時に、PCR検査についても、濃厚接触者には該当しないものの感染者の行動歴や交友関係等から感染の可能性が疑われる方について、幅広く実施してまいりました。

このような中、1月下旬から、オミクロン株の影響により、全国的に感染者が急増いたしました。これは本県、本市においても同じでありました。このオミクロン株については、これまでのデルタ株と比べ、潜伏期間が5日から3日と短いですが、感染力は非常に強いという特徴を持っており、感染者の症状については、軽症あるいは無症状の割合が非常に高くなっております。

このオミクロン株の特徴を踏まえ、3月に国において、同居家族の把握や、高齢者施設などの重症化リスクの高い方が入所している施設の調査を優先的に行うなど、重症化防止に力点を置いた調査に重点化する積極的疫学調査の見直しが示され、本市においても、国の方針に基づいて実施してまいりました。

また、患者の搬送や食料の配送業務、健康観察業務などを民間委託しております。このことによって、業務の効率化、あるいは保健所職員の業務の負担軽減を図ってきたところであります。

しかしながら、先ほど、ご報告した通り、全国で第6波をはるかに超えるスピードで感染が拡大しており、先ほども申しましたが、いまだ収束傾向にないという現状認識を持っております。これまでになかったような状況となっていることは、冒頭に申し上げたとおりです。

このため、国では、7月22日に、重症化リスクのある高齢者を守ることに重点を置いた対策を確実に実施していくため、「オミクロン株のBA.5系統への置き換わりを見据えた感染拡大に対応するための医療機関・保健所の負担軽減等について」の通知を发出されました。

これを受けまして、県と同様に、国の方針に従って、65歳以上の方と40歳から64歳の方で慢性呼吸器疾患や糖尿病などの重症化リスク因子を複数持つ方、妊娠されている方などの重症化リスクのある方に重点化して、

ご本人の現在の症状や同居家族などの聞き取り調査を実施させていただいております。

なお、64歳以下の方で重症化リスクの無い方などにつきましては、ショートメッセージにて、自宅療養の注意事項や濃厚接触者への対応、また、ご自身で健康観察をお願いしておりますので、体調が悪化した場合の保健所の連絡先などを案内しております。

保健所では感染者の対応に鋭意取り組んでおりますが、調査の重点的な対応につきましてご理解いただきますとともに、引き続き「うつさない」「うつらない」ための行動の徹底をお願いいたします。医療機関の負担軽減や逼迫の防止とともに、住民の皆さんの直接的な窓口となる保健所の対応というのは、非常に大事でありますし、これまでも大きな役割を果たしてまいりました。その保健所の業務が、かつてないほど逼迫しているということでもあります。市民の皆さまには（この状況を）ご理解いただいて、ご自身で責任のある対応をお願いしたいと思います。

---

#### 記者

水道スマートメーターの試験事業について、スマートメーターは通信やコストといった課題もあると聞いていますが、この有効性が確認されればさらに導入地域を増やしたいという思いはありますか。

#### 市長

コストから言いますと、当初のコストよりも随分下げられるということを知っております。それ（について）は当局に正確な価格を問い合わせただけだと思いますが、コスト面でかなり廉価に購入できるようになってきたということと、北陸電力送配電（株式会社）の現在の通信網を使えば安定的にデータが取れるということがわかってきましたので、やはり電波はどうしても中山間地域の山間部においては途切れたり障害が発生したりすることが多いですから、安定的な通信環境が確保されたということ、この二つは、大きな点であります。

実証（実験を）して今年度、良い結果が出れば、富山市においても豪雪地帯や豪雪時の検針はやはり危険でありますので、検針員は豪雪の中、雪

をかきわけながら今まで（検針に）行っていたわけですが、そういう危険性の回避にも繋がりますので、順次横展開していきたいと考えております。

記者

市長が掲げておられるスマートシティ施策とも関連するのでしょうか。

市長

もちろんその中の施策の一つであります。

---

記者

キャッシュレス決済ポイント還元事業について、これまで（第1弾、第2弾）はPayPayを利用されており、同様のサービスをされている自治体でもPayPayが多く、（PayPayが）大分浸透していたように思いますが、今回外された理由を教えてください。

市長

基本的には、運営会社（受託事業者）をきちんとした形（指名競争入札）で選定して、その運営会社（受託事業者）が、（キャッシュレス決済サービスの）会社を選定するというスキーム（仕様）であり、要はその会社（受託事業者）にお任せしているということであります。

それで今回、d払いとau PAYになったということです。ちなみに私も前回（第1弾、第2弾）の（キャッシュレス決済サービスの）会社（PayPay）を使っていますが、新しくチャレンジしてみたいと思います。

---

記者

富山チンドンフェスティバル 2022 について、チンドンフェスティバルという形でチンドンのイベントを開催するのは初めてですか。

市長

初めてです。

今まで全日本チンドンコンクールの形式でコンクールをやってしまし

たが、今回はフェスティバルですから、順位などをつけずに、点数の評価もなく、純粋にパフォーマンスされる方はパフォーマンスしていただいて、我々市民や県民はそれを一緒に楽しむというスタンスであります。

今回は、特にチンドンマンの親方衆の方々に意見を聞いたり、富山市民の方々に意見を聞いたりした中で、双方から、富山市において毎年全日本（チンドンコンクール）として開催されるものの代わりとしてパフォーマンスの場が必要だと。市民の方（から）も開催してもらえたら嬉しい、ぜひ見たいという声がたくさんありました。また、パフォーマンスをされるチンドンマン（から）も、ぜひやりたいという方々がたくさんおられましたので（開催することとなりました）。出演される方のほとんどが、チンドンコンクールに出られる予定だった方ばかりでありますので、詳しくは担当課に聞いていただければわかりますので、よろしくお願いいたします。

---

## 記者

2週間前の市長記者会見で、旧統一教会との関係について立ち止まって考えるとお話されていましたが、2週間経った今の考えをお聞かせください。

## 市長

旧統一教会、世界平和統一家庭連合、あるいは平和大使協議会だと思いますが、前回私は、さまざまな報道を受けて、そういうことが真実であれば、1回しっかり立ち止まって、今後考えていきたいというふうに申し上げました。その後、自分なりにこれまでのお付き合いも含めて、一度調べてみようということで詳細を調べてから申し上げるというようなお約束をしておりました。

いくつかに分けられると思いますが、一つは私自身の選挙と後援会活動についてであります。皆さんご存知のように、後援会活動というのは現在もやっておりますし、一般的に、いろんなところへ出向いて演説をさせていただいたり、スピーチをさせてもらったりしていますし、選挙期間中以外のいわゆる私の政治的な活動だと思います。そして、それを経て、選挙の期間に入って、多くの方々に協力していただいて選挙戦を戦うというよ

うな流れであります。

まず後援会活動の期間中ではありますが、私の後援会の事務局、あるいは後援会の幹部の聞き取り、あるいは後援会名簿等を精査いたしましたところ、後援会活動においては、後援会のパンフレット、あるいは後援会の名簿などを利用して知人や友人等の紹介をしていただいたであろうということでありました。紹介者のカード、一般的に後援会入会申し込みカードというものがありますが、そこには、今ほど冒頭に私が申し上げた団体に該当する名前はなかったということでもありますので、そこに所属しておられる関係のある方々有志で後援会加入活動をお手伝いしていただいたのではないかと聞いております。後援会活動についてはそのとおりでありました。

選挙期間中についてではありますが、前回も申し上げましたとおり、選挙期間中か後援会（活動中）か忘れましてと言っていた、集会でスピーチをさせていただいた件でありますけど、これは、選挙期間中に一度スピーチをさせていただいたと（いうことでありました）。それは、場所は教会でありました。そういうことでもあります。

次に、選挙期間中に電話かけがあります。これは集票を目的としたお願いの電話であります。事務所に設置してあった電話から、有志の方々、数名が来ていただいて、電話かけを手伝っていただいた事実があるということ把握いたしました。

ですから後援会活動中には名簿集めにお手伝いをいただいたということ、そして、選挙期間中には教会（集会場）にお招きいただいてスピーチをさせていただく機会をいただいたということ、有志の皆さんによる電話かけのお手伝いをいただいたということがありました。

そして、前回、今年度に入ってから出前トーク、これは市の公式な行事でありますので、平和大使協議会のお申し出だと思っておりますけど、6月19日（日）に県民会館でありましたけど、出前トークを行っております。出前トーク終了後に質疑応答がありました。そこまでは、市の行事でありますので、それを一旦そこで打ち切りまして、休憩を挟んだ後に、これからが



政務である後援会の部分、公務が終わって政務ですね。ですから、市役所の職員等はおりませんが、平和大使協議会という場所でありましたので、その集会で、市長の後援会を立ち上げようという話を出されまして、決議をいただいたということでもあります。

これが、昨年も一度出前トーク等もございましたが、前回から今回にかけて調査をさせていただいて、改めて報告しなければならないなと思った内容であります。

それと、前回もそうでありましたし、これまでに電話等でも富山市としての対応をどう思っているのかというような質問を報道各社からいただいております。その内容は主に旧統一教会系の団体（との関わりに関して）であります。市長や市長部局の、例えばピースロードやその他の平和の集いなどへの参加の現状や、後援を出しているというようなこともありますので、そういう現状はどうかなどといった問い合わせが、私のもとにも複数回ありました。そういうものについて、調査をしました。

その結果、富山市としての対応であります。市長としては昨年 1 回、今年 1 回、公務としての出前トーク、これは報告申し上げたとおりですが、行っております。（また、）市の幹部、あるいは市職員がそのような団体の主催行事に参加した事実は把握できませんでした。

なお、出前トークの内容であります。2 回とも富山市の目指すスマートシティについての講演会ということで、通常の出前トークと変わらない内容だったと思っておりますし、そこで出た質疑応答も、前回も申しあげましたが、医療や福祉の充実、長寿社会のこと、教育のこと、学校の統廃合のこと等も含めて、ごく一般的に市民の皆さんが大変危惧しておられる内容のことです。

あと、申請がありました後援等の名義の使用承認に関することですが、これは事務取扱要綱を富山市は持っておりますので、その事務取扱要綱に照らし合わせて、昨年度、市長部局から 3 件の後援を出しているということでもあります。教育委員会は所管が違いますが 1 件、計 4 件の後援等の名義の使用承認を行ったと把握いたしました。

なお、補助金の支給実績は一切ないということでもあります。

今年度になりまして、7月末現在で把握しているところでは、後援が2件、内訳は市長部局が1件、教育委員会が1件であります。この他に関連の団体（から）と思われる取材、要は記事を書くための市長に対する取材が1件ありました。それと先ほどから言っているとおり、6月19日の出前トークで富山市の進めるスマートシティについて講演をさせていただいたということでもあります。これが今まで私が把握した事実であります。

それで（質問の）答えになりますが、旧統一教会系の団体とこれからどのようにつき合っていくのかということでもありますけど、特定の団体、あるいは個人との関わり方というのは、私は市長という立場でありますので、この立場は非常に重たいものと考えておりまして、市長としての立場を十分に認識するとともに、相手方の団体あるいは個人の活動内容をしっかり把握するというに欠けていたという面もあります。しっかりとそういうものを調査しながら、おつき合いをしていきたいというように思います。その上で、今回の一連の事実を受けて、これまで以上に慎重に対応を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

記者

慎重に対応を図りたいということですが、完全に関係を切るというわけではないということでしょうか。

市長

相手のあることですから、それも含めて、今おっしゃったことも含めて、慎重に対応をしていきたいと思えます。

記者

はっきりと関係を切ると言えない理由としましては、相手のあることなので慎重に考えてということなのでしょうか。

市長

そのとおりです。

---

記者

今ほどの質問に関連して伺います。後援会活動中に名簿集め、選挙活動中に有志の皆さんによる電話のお手伝い(ということですが)、これは選挙応援としてそのようなことを受けたということですか。

市長

選挙期間中は選挙の応援として電話かけですね。投票依頼の呼びかけというものがありますので、その呼びかけにお手伝いをいただいたと把握しています。

記者

これは旧統一教会の関係団体の方がお手伝いをされたということですか。

市長

そのように後援会から聞いています。

記者

それについてどのように受け止めていますか。

市長

選挙というのは非常にたくさんの手がかかるわけでありまして、非常にたくさんの方々にお手伝いいただきながら進んでいくものであります。そういう方々にその時点でお手伝いしていただいたということについては、率直に助かった面もあるわけでありまして。選挙に関してはですね。

しかし、今この場に至って、そういうふう to 考えてみれば、選挙の応援をしていただくということは、誰が応援しているか把握するのが難しい一面もありますが、しっかりと選挙事務所に出入りされる方々については、素性を把握しておくことも必要だというように考えています。

記者

選挙応援をしていただいて、講演にも何度か呼ばれてお話をされているということですが、見返りを求められたり、それを受けて何かされたことはありますか。

市長

それは一切ありません。

平和大使協議会の講演の中身は、富山市の目指すスマートシティであります。これは、幸せな富山をどう作っていくかという手段がスマートシティでありますので、純粹にそのような形でお話をさせていただいたと（いうことです）。見返りも一切ありませんし、お願いされたこともありませんし、お願いしたこともないわけであります。

記者

富山オープンカレッジに藤井市長も参加され、そこでお話されて平和大使の任命を受けたということもありました。富山オープンカレッジはその時点で 58 回開催されているものだったと思います。その講師の中に旧統一教会系の信者の方が 8 人いらっしゃったということですが、そのような講演会が富山市内で複数回開催されていたことについて、どのように受け止めていますか。

市長

私が参加させていただいた会の話は、平和や人類の愛について、家庭の愛、家族の繋がり大切さについてという内容だったので、前回も申しましたとおり、集会の話の内容そのもの（について）は、何ら違和感を感じなかったわけであります。

しかし、いろいろな報道や、私も個人的にいろいろと勉強させていただく中で、講師陣がそのような方々だったとは存じ上げなかったとはいえ、そのような会に出席する時は、先ほども言いましたが、市長の立場ということもあります。しっかりとその団体がどういう団体か、あるいはその個人がどういう個人かということをもっと把握すべきだというように反省をしております。

記者

(市長が) 知らずに参加されたとしても、その教会との繋がりのないものだと思いますオープンカレッジに参加された方がいらっしゃった場合、そこに市長が参加されているということで、関連団体の名前や信頼度を上げるというか、藤井市長も参加されているイベントだから安心だと感じる方もいらっしゃると思いますが、市長という立場というのはそのあたりも何か関係していますか。

市長

純粹にそのように考えたことは今までなかったわけですが、そのような報道もあるわけであります。ですから、そういうところに参加する時は、市長という立場もありますので、十分気をつけて参加しなければならないと反省しているところであります。

=====

記者

旧統一教会系（の団体）からの献金やお金をもたらったというようなことはありますか。

市長

それ（に関して）も収支報告書を調べましたが、一切ありません。

=====

記者

キャッシュレス決済（ポイント還元事業）について、市内の多くの店舗では PayPay が使えるというように思いますが、今回、市内の消費や経済を回すという意味で PayPay が入っていないことについてどのようにお考えですか。あるいは、この機会に新しいキャッシュレス決済を広げていきたいということなのか、考えをお聞かせください。

市長

委託した会社（受託事業者）との条件の中で、d 払いと au PAY が、一番条件が良かったということだったのだと思います。

私も個人的にはご質問のような思いもありましたが、新しいサービスを

使ってみて、それぞれのユーザーの方が、こういう別の便利な使い方もあるのかということも発見されるかもしれないですし、私も他の（キャッシュレス決済サービス）も使ってみようと思っています。

=====

記者

路面電車の利用状況の中で、均一運賃（が導入されたことによるお得感の調査）で回答者の68%の方がお得感を感じているというのは、逆に言うと、3割ぐらいの方が満足に感じていないということではないかと思いますが、これは市としては前向きに受け止めている数字だということでしょうか。

市長

アンケートの中身を担当課にご確認いただければと思いますが、大変お得になった、お得になったというように、どちらかというとお得になったという方がこれだけおられるので、その他の方は不便になったということではなく、あまり変わらないというような方が残っているということで、前向きに捉えています。

=====

記者

水道スマートメーターについて、この実証実験を始めるきっかけは、水道の部署の方から豪雪で検針が大変だからということがきっかけだったのででしょうか。きっかけの内容を教えてください。また、このスマートメーターは他の自治体でもすでに導入されているのでしょうか。

市長

きっかけですが、市上下水道局では検針員を委託しており、その検針員が人手不足になってきたり、歳を重ねておられ、特に豪雪の時に検針に行けなかったり、車を麓に停めて山道を上っていかなければならないということが多々あるわけです。加えて、中山間地域は連坦していない家がたくさんあり、地形的にも厳しいわけでありますので、主にそういう検針（員）の方々や上下水道の協会の方々から、スマートメーターは便利なものだから

らいいのではないかと（いうことがきっかけです）。

上下水道局長

スマートメーターに関しましては、全国的に実証実験等を繰り返されているところであります。本市と同じ北陸電力（の通信回線）を使ったものにつきましては、輪島市ですでに始まっております。単価の関係もございいますので、全国的に実証実験も踏まえながら、今、進められているところです。

=====

記者

先ほどの旧統一教会の関係で、後援会を結成していただいたということですが、今回のことを踏まえて、その後援会を解散していただくという可能性も検討されているのでしょうか。

市長

そこは慎重に考えたいということであります。もちろん今おっしゃられたことも含めてということだと思いますが、後援会活動や選挙のお手伝いというのは、私がすべて頼んだり、お願いしたり、例えば後援会の設立についてもたくさんの団体の中で、内部後援会みたいなものを作っていて、大変ありがたいなと思いつつながら後援会活動をしているわけですが、たくさんの人にお世話になって、後援会というのは作られていくわけであります。ですから、相手と私という立場もありますけど、それを紹介していただいた皆さんや、そのまわりにはたくさんの方々がいらっしゃいますので、しっかりと相談して、今おっしゃったことも選択肢の一つに含めて、慎重に判断したいということです。

記者

今日の会見では、これから慎重に検討するという回答が多かったと思いますが、次の会見などでその進捗などを説明される予定はありますか。

市長

進捗があれば、真摯に、しっかりと後援会の皆さんと話をしながら、ご

報告することがあれば、今回、前回と同様に報告させていただきたいと思っています。

=====

記者

後援会の発足や集会に呼ばれているということですが、藤井市長と団体等をつないでいる方というか、誰の紹介があって、そのような繋がりができたのか、わかっていることがあれば教えてください。

市長

後援会活動や選挙活動というのは、実行委員会組織があって、私が関与しないままにどんどん進んでいきますので、それが後援会の輪になってどんどん広がっていくんですね。どなたの紹介だったかというのは、今現在ではわかりませんので、そのようなことも含めて、しっかり把握していきたいと思います。

=====

※発言内容を一部整理して掲載しています。・・・富山市広報課